

2023年12月6日

全国の教会・伝道所の女性会の皆さま

教会に集う皆さま

日本バプテスト女性連合

6・23「沖縄（命どっ宝）の日」推進委員会

「祈り便」第63信（12月～3月）のご案内

全国の皆さま、福岡での「日本バプテスト女性連合第51回総会・信徒大会では久々に顔と顔を合わせて再会することができ、嬉しかったです。ともに賛美をささげ、み言葉に聴き、分かち合いの豊かな時を味わいました。「沖縄はどんなですか？」と会う人会う人に聞か

れ、祈りの篤さを思いました。

数年前、少年少女たちと辺野古へ行った時、わたしたちを待っていてくださった T 牧師が辺野古の説明を終え、「戦争ってどんなこと？」と質問しました。誰も口を開きません。その時、T 牧師が「それなら、みんなで戦争を体験しましょう」と言うと、ほとんどの少年少女たちが「それは困る」と慌てました。失ってからでは遅い。それをみんな知っていたのです。失って初めて気づくのでは遅いのです。ウクライナで、ガザで、ミャンマーで、そして戦火が上がる場所すべてで、追われる人びとは命、住まい、未来、愛する人を失いつつ命を縮めています。失った人が初めてわかる平和の大切さ。

「沖縄を二度と戦場にさせない」という沖縄地上戦を生き抜いた方がたの願いや思いと真逆の「戦争への道」が日米両政府によって押し進められています。「軍隊は住民を守らない」と先の戦争で県民は学びました。しかし今、日本では「ウクライナから東アジアへの戦場シフト」とささやかれながら自衛隊基地、弾薬庫、ミサイル基地、軍関係の建造物、その中に入るミサイル、P A C 3などが持ち込まれています。国民に聴くことなく憲法の解釈が変えられ、軍事関連の品々が輸出可能となり、着々と戦争への準備が進んでいるのです。

皆さんの周辺でも民間空港や港が軍民共用にされていませんか。今、佐賀においても新しい自衛隊基地建設が持ち上がっています。

声を上げられるときに、みんなで声を上げましょう。

「祈り便」第63信をお送りします。周りの友と祈りを合わせましょう。